

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターありたま担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 8年 1月 14 日（火）13 時 30 分 ～ 15 時 30 分
2 開催場所	積志協働センター 302講座室
3 参加者	28名（委員8名、関係機関9名、事務局3名、オブザーバー8名）
4 協議の内容	
開会	-
協議体会長より行った。	
前回までの振り返り	-
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき振り返りを行った。	
主な意見・質問など	
-	特になし。
自己紹介	①所属、②名前、③積志地区や自身の住む町での最近の話題や出来事など オブザーバーがいることを踏まえ、グループに分かれて自己紹介を行った。
情報提供①	データや地図から見る積志地区の現状について〈有玉台・有玉西町・西ヶ崎町・半田町・半田山〉
生活支援コーディネーターより、配布資料に基づき情報提供を行った。	
主な意見・質問など	
-	特になし。
協議テーマ①	情報提供を踏まえた地域の現状について ・ 情報提供を踏まえ感じたこと、気づいたことについて ・ (5町・地区全体問わず)地域の生活課題や今後考えられる取り組みについて
情報提供①を踏まえ、グループに分かれて協議を行った。	
主な意見・質問など	
Aグループ	
-	(1)地域の現状について ①世帯数が多いからと言って、そのエリアが賑わっているとは言えないと思われる。年齢別人口なども踏まえて見ていく必要があると思われる。 ②配布資料に 10 年前と比較した人口や高齢化率などがあるが、団地ができた当時に集まった若い層が、そのまま高齢化していることが多いように感じる。 ③半田山で高齢化率が低いエリアは医大生が住んでいて、高いエリアは団地などで高齢者が多く住んでいると思われる。 ④団地では多くの人が住んでいるものの、知り合いになる機会が多くあるわけではないように感じる。 ⑤配布資料に航空地図があるが、面積は広くても戸数が少なく、隣家との距離がある場合も見られる。

	<p>⑥世帯数が増えるエリアというのは、団地ができたり分譲住宅ができていたりしていると思われる。その意味では、調整区域に該当するかなどの土地政策も大きく影響していると思われる。</p> <p>⑦若い世代が転入せずに減ってくれば、子ども会のような活動も難しくなってくると思われる。そのような担い手不足の課題には、土地政策も影響していると思われる。</p> <p><u>(2) 情報共有について</u></p> <p>①「家族構成名簿」といった、自治会において緊急時を含め助け合い支え合いに必要な情報も提出しない世帯も出てきている。また提出していても氏名など最低限の情報しか記入していない場合も見られる。またそれに伴い同じ班でもどのような方が住んでいるか分からない場合が増えているように感じる。</p> <p>②助け合い支え合いを進めるにあたって、情報共有は基盤になると思われるが、そのあたり情報共有を望まない方も増えているように感じる。</p> <p>③情報共有を望まないのは、個人情報保護の意識が強いのか、単に恥ずかしいのか、役員勧誘や行事参加等の声掛けを避けるためか、分からないが、周りはサポートしようとしても、当人が望まない場面も多く見られる。</p> <p><u>(3) 見守りについて</u></p> <p>①一人暮らし高齢者で、自宅で倒れて亡くなっているのを後日誰かが発見するケースが増えているように感じる。</p> <p>②救急車などが来るような事態があった場合でも、直接現場に居合わせない限り、情報が入ってこないことがある。地域での助け合い支え合い、見守りは大切だとは思いますが、そのあたり当人の意向もあって情報共有がなされないこともあるように感じる。</p> <p>③一人暮らし高齢者などが増えていく一方で、様々な要因から助け合い支え合いでのサポートも難しくなっていくと、民間企業が展開しているサービスの利用も選択肢になると思われる。ただそのようなサービスについては、すぐに現場に来ることも難しい場合がある。いずれにしても住民だけでなく行政や専門機関としても手立てを考えていく必要があると思われる。</p> <p>④生活支援サービスも大切ではあるが、見守り活動も生命に関わるため、仕組みとして考えていくことが大切だと思われる。</p>
<p><b>Bグループ</b></p> <p>-</p>	<p><u>(1) 地域の現状について</u></p> <p>〈有玉台〉</p> <p>①高齢者世帯を訪問する中で、広い敷地に大きな家を構える世帯が多いように感じる。一方で住民は少ないように感じる。</p> <p>②坂の上と坂の下で地域性に差があるように感じる。坂の上は転入者が多く、近隣住民とのつながりが薄いように感じる。一方で、坂の下は地元住民の割合が高く、坂の上と比べて近隣住民とのつながりも強いように感じる。</p> <p>③坂の多い地域であるため、ゴミ出しの支援依頼が多いと思われる。</p> <p>〈半田町〉</p> <p>①買い物できる場所がないように感じる。そのため、隣接地区にあるドラッグストア(内野の杏林堂薬局)を利用している人が多いと思われる。また、現時点では自家用車を所有している人が多いように感じる。その中で、近隣の高齢者を乗せて買い物に行く人も見られる。</p>

	<p>②シニアクラブが公会堂で活動しており、その活動を通じて住民同士の交流が生まれているように感じる。一方で、公会堂までの距離がある人については、参加できていない状況が見られる。</p> <p>③もともと住んでいる人たちは交流があるが、転入してきた人はアパート住まいが多く、昔からの住民とは状況が異なるように感じる。</p> <p><u>〈半田山〉</u></p> <p>①半田山北は若い世帯が多いように感じる。高齢者は転入してきた人（医師、医療関係者、弁護士などの高学歴者）が多く、近隣住民との関係は希薄であるように感じる。</p> <p>②高齢者が増えてゴミ当番の免除を希望する人が増えているように感じる。全員の希望を受け入れるわけにはいかないため、集積所をネットからケージに変更して当番の負担を減らした。高齢者でもゴミが出しやすいように集積所も増やした。</p> <p>③買い物をするところがないように感じる。10年くらい前には移動販売が来ていたが、売り上げが少ないせいか来なくなってしまった。そのため、以前のように、公会堂などに移動スーパーを呼びたいと考えている。</p> <p><u>(2)外出支援・買い物支援について</u></p> <p>①民生委員活動を通して、買い物やゴミ出しなど、サービスを利用しないと生活が難しい人が増えているように感じる。</p> <p>②サロンなどの集まりに移動スーパーに来てもらっている。</p> <p>③訪問販売業者に市から補助金などを出して応援するのも大切だと思われる。</p> <p>④移動スーパーが来るようになったら、近所の人が集まるようになったように感じる。</p> <p>⑤高齢者は質素でお金をあまり使わない様子が見られる。そのため、移動スーパーの売り上げも増えないと思われる。</p> <p>⑥内野台の遠鉄ストアでは巡回バスを出している。こういう取り組みが増えてほしいと感じる。</p> <p>⑦以前は地域内に商店が点在していたが、スーパーの進出などの影響により次第に閉店していったように感じる。その結果、買い物先までの距離が遠くなっている人が多いと思われる。</p> <p>⑧この間、生協を頼んでいる人が増えているように感じる。</p> <p>⑨ヘルパーの買い物依頼は増えているが、事業所はヘルパーの確保に苦慮している様子が見られる。</p> <p>⑩積志地区社協が実施している付添い支援を、利用料金が安価なタクシーのように捉えている人が多いように感じる。本来の目的は自動車を利用した付添い支援であり、そのあたり目的との乖離が生じていると思われる。</p>
Cグループ	
-	<p><u>(1)地域の現状について</u></p> <p><u>〈有玉団地〉</u></p> <p>①有玉団地や半田団地では、約50年前に入居した世代の高齢化が進んでおり、それに伴い空き家も増加傾向にあるように感じる。また、家主と連絡が取れない空き家も多く、取り壊し等も行われていないため、新たな住民が入居する余地が少ない状況も見られる。</p> <p>②高齢者のごみ出しについては、ごみステーションが3か所設置されており、現時点では住民から大きな困りごとは聞かれていない。ただ地域は台地で高低差があるため、できる限り坂の昇り降りが不要となる配置が望ましいが、設置場所の確保が困難な状況にある。</p>

	<p>〈半田山北〉</p> <p>①医療機関には恵まれている一方、日常的に買い物ができる施設は少ないように感じる。また、運転が可能な人は、町外のスーパーまで買い物に出ていると思われる。</p> <p>②ドラッグストアで野菜等を購入できるため、近隣住民にとっては助けとなっている様子が見られる。</p> <p>③買い物困難者への支援として、巡回バスが今後 NPO として運行されれば、買い物の利便性向上が期待される。バス停留所としては、積志駅や積志協働センター等が候補として検討されている。運用方法として、スマートフォンアプリから利用予約を行う仕組みとなる可能性があり、高齢者に対してアプリ入力方法を伝える講座等があれば、制度を活用できる人が増えると思われる。</p> <p>④居場所活動については、参加費を徴収する形でサロンが開催されているが、距離的な理由から参加できない人がいるのが実情である。</p> <p>〈西ケ崎町〉</p> <p>①かつて4つあったシニアクラブのうち、半数以上が休止している。主な理由は担い手不足であると思われる。</p> <p>②西ケ崎町旭にて新たにサロンを立ち上げたいとの申し出があった。</p> <p>〈大瀬町東〉</p> <p>①サロン活動を月2回実施している。農園サロンでは子ども会との交流イベントも行っており、多世代が集う場となっている。</p>
--	--

<b>協議テーマ②</b>	<b>次年度協議したいテーマについて</b>
この間の協議を踏まえ、グループに分かれて協議を行った。適宜感想などを基に今年度の振り返りも行った。	
<b>主な意見・質問など</b>	
<b>Aグループ</b>	
-	<p>①生活支援に関する課題を掘り下げていくと、地域住民だけでは難しい部分が必要だと出ると思われる。その意味では、住民主体の生活支援サービスをテーマとしていても行政や専門機関などでも協議をしていくことも必要だと思われる。</p> <p>②地域において挙げられている課題に対し、試行錯誤しながら取り組んでいる地域もあると思われる。そのような事例やノウハウを共有してもらえると、今後の取組みについて協議しやすいと思われる。</p>
<b>Bグループ</b>	
-	<p>①自治会長の生の声が聞けてとても良かった、参考になったと感じる。</p> <p>②課題がある程度把握できてきた中で、それをどう扱っていくかが課題だと思われる。協議体内だけでなく、もっと行政にも検討してもらうための方法を協議していくことも有効だと思われる。</p> <p>③半田山に巡回バスが走ることになったので、その効果などを協議していくのも有効だと思われる。市にも応援してほしいと感じる。</p> <p>④民生委員と話をする機会が少ないため、そのような意見交換の場があるとありがたいと感じる。その際、ひとり暮らし高齢者にはどのような人がいるのかを聞いてみたいと感じる。</p> <p>⑤家事支援協力員の負担感が大きいという話題を踏まえ、公園愛護会のメンバーや神社の草取りを行っている氏子に声をかけて、協議体に参加してもらい、家事支援活動の意義を伝えることが有効だと感じる。自身も公園愛護会のメンバーであるが、依頼があれば、数名で協力して草取りなどの作業に対応できるのではないかと感じる。</p>

<b>Cグループ</b>	
-	<p>①今年度のように自治会長と共に地域課題を検討できたことは良い取り組みであり、地域の状況をより詳しく知ることができたと感じる。今後も継続してほしいと感じる。</p> <p>②自治会長は多くの業務を抱えているが、本会を通じて福祉分野について検討する機会となったと感じる。</p> <p>③回を重ねるごとに協議内容が深まってきたと感じる。協議を通じて得られた情報は、役職が交代した後も引き継がれ、活用されることが望ましいと感じる。</p>
<b>その他・事務連絡</b>	<p>①協議体委員報酬の支払いについて</p> <p>②協議体委員の任期について</p> <p>③次年度協議体(第1回)の開催について</p>
生活支援コーディネーターより、事務連絡を行った。	
<b>主な意見・質問など</b>	
<b>③次年度協議体(第1回)の開催について</b>	
<b>周知</b>	次年度の第1回は7月を予定していて、地区社協定例会も活用しながら別途日程調整をし、早めに案内をする。
<b>閉会</b>	-
協議体副会長より行った。	
<b>5 今後の見通し・必要な対応</b>	<p>今年度は、協議体の各回において地区の中から複数の町を選定し、該当町の自治会長にも参加いただいで、地域の現状や今後の取り組みについて協議を行った。</p> <p>それにより、きめ細やかなエリアにおける地域ニーズだけでなく、地域の各団体の活動状況などについても理解が深まったように感じる。また、生活支援サービスの展開における連携の余地などについても協議ができたと思われる。</p> <p>その意味で、今年度取り組んだ、自治会長を招いた地域の現状や今後の取り組みについての協議は、地域のニーズや活動についての振り返り、各主体のネットワーク形成などにあたって貴重な機会となった。そのため、自治会長だけに限定しないよう留意しながら次年度以降の進め方を検討していきたい。</p>